

中国共産党第八期中央  
委員会第六回総会の文献

外文出版社

北京

中国共産党第八期中央  
委員会第六回総会の文献

外文出版社  
北京

## 目次

中国共産党第八期中央委員会第六回総会の公報……………	五
人民公社の若干の問題に関する決議……………	(一九五八年十二月十日) ……一九
中国共産党第八期中央委員会第六回総会の 毛沢東同志がおこなつた、次期の中華人民共和国主席の候補者 にならないことについての提案に同意することに関する決定 ……………	(一九五八年十二月十日) ……五

## 中国共産党第八期中央委員会第六回総会の公報

### 公報の内容の摘要

毛沢東同志は会議を司会するとともに、会議で重要な演説をおこなつた。

総会は、「人民公社の若干の問題に関する決議」を採択した。決議は、わが国農村の人民公社運動が偉大な歴史的意義をもつていとみなすとともに、理論上、政策上から、人民公社についての一連の問題を解明した。

総会は、一九五八年のわが国国民経済の発展が空前の偉大な勝利をかちとつたそのおもな経験を総括した。総会は、国民経済の飛躍的な発展は、党の社会主義建設の総路線および二本の足で歩くというまとまつた方針が正しいことを証明していると指摘

した。

総会は、一九五九年の国民経済発展の方針およびいくつかのおもな指標を提出した。総会は、來年度の雄大な躍進計画を実現するには、ぜひとも、毛沢東同志が一貫して唱道してきた、戦略上では困難を蔑視し、戦術上では困難を重視しなければならないし、天をつく意気込みをもつとともに、科学的に分析する精神も必要であるという指示を貫徹しなければならないと指摘した。

総会は、毛沢東同志のおこなった、次期の国家主席の候補者にならないことについての提案に同意し、毛沢東同志がもつぱら党中央の主席を担当すれば、いつそう精力を集中して、党と国家の方針、政策、路線の問題を処理することができ、より多くの時間をさいてマルクス・レーニン主義の理論工作に従事できるようになるし、また、国務にたいしては、ひきつづき指導的な役割をはたさまたげにはけつてならないと指摘した。こうすることは、全党ならびに全国人民のいずれにとつてもいつそう有利である。

総会は、まさしく、毛沢東同志がのべたように、国際情勢の全般的な特徴は、「敵が日一日とくされはててゆき、われわれは日一日とよくなっている」ことであると指摘した。総会は、ソ連を先頭とする社会主義陣営が一段と強大になり、その団結がいつそうかたくなつたことを満足の意をこめて指摘した。総会は、ソ連共産党中央のうち出した七カ年計画は、偉大な歴史的意義をもつた共産主義建設のための綱領であるとみなしている。

中国共産党第八期中央委員会第六回総会は、一九五八年十一月二十八日から十二月十日まで、武昌でおこなわれた。

こんどの会議は、毛沢東同志の司会のもとにすめられた。こんどの会議には劉少奇、周恩来、朱德、陳雲、林彪、鄧小平、林伯渠、董必武、彭真、羅榮桓、陳毅、李富春、彭德懷、劉伯承、賀龍、李先念、柯慶施、李井泉、譚震林等中央委員八十四名、中央委員候補八十二名が出席した。中央委員もしくは中央委員候補でない中央の関係部門の責任者および省、市、自治

区の党委員会第一書記も会議に列席した。

中央委員会第六回総会の開会にききだつて、十一月二日から十日まで、毛沢東同志は鄭州で、中央のいちぶの指導者と地方のいちぶの指導者の参加する会議をひらき、ついで十一月二十一日から二十七日まで武昌でまた、中央のいちぶの指導者と各省、市、自治区の党委員会第一書記の参加する会議をひらいて、こんどの総会の準備をおこなつた。

第八期中央委員会第六回総会のおもな議題は、人民公社についての問題、一九五九年の国民経済計画についての問題、毛沢東同志を次期の中華人民共和国主席の候補者に指名しないことについての問題であつた。このほかさらに、農村における財政・商業の管理体制の改善の問題、国際情勢の問題について討議した。総会は、グループ会議と全体会議での十分につつこんだ討議をへて、それに相應する決議を採択した。毛沢東同志は、会議で重要な演説をおこなつた。

第八期中央委員会第六回総会は、「人民公社の若干の問題に関する決議」を採択した。決議は、この数カ月間におけるわが国農村の人民公社運動をひじように高く評価し、これは偉大な

歴史的意義をもつ出来ごとであるとみなしている。決議は、理論上、政策上から、人民公社についての一連の問題を解明した。決議は、人民公社の正しい発展の方向について、公社の生産方針について、賃金制と現物給与制をむすびつけた分配制度を実施することについて、人民の生産と生活を組織することについて、民主集中制の組織原則を貫徹することについて、党の指導をつよめ、大衆路線と現実にくくして真理をもとめる作風を発揚することなどの諸問題について、それぞれ規定をおこなつた。決議は、各級の党委員会が今年十二月から來年四月までの五カ月間の期間を有効に活用し、冬季、春季の生産任務としつかりむすびつけながら、その地区の人民公社について体制をととのえ、これをかためる仕事をおこなうよう要求している。

第八期中央委員会第六回総会は、一九五八年におけるわが国国民経済発展のおもな経験を総括し、一九五九年の国民経済発展の方針をうち出した。総会は、一九五八年におけるわが国国民経済の発展が空前の偉大な勝利をかちとつたことを指摘した。一九五八年の一年間の工農業生産物の生産量は、いまの予想では、鋼は一九五七年の五百三十五万トンから千百万トン前後にふえ、石炭は一九五七年の一億三千万トンから二億七千万トン前後にふえ、工作機械は一九

五七年の二万八千台から九万台前後にふえ、食糧は一九五七年の三千七百億斤（訳注Ⅱ）億八千五百万トンから七千五百億斤（訳注Ⅲ）億七千五百万トン前後にふえ、綿花は一九五七年の三千二百八十万担（訳注Ⅳ）百六十四万トンから六千七百万担（訳注Ⅴ）百三十五万トン前後にふえる。その他の重要な工農業生産物の生産量も巨大な増加をしめた。工農業生産総額は、一九五八年には一九五七年より七〇パーセント前後増加する見込みであるが、一九五七年には一九五二年より六八パーセント増えているにすぎない。財政収入は、一九五八年には一九五七年より百四十億元前後ふえる見込みであるが、一九五七年には一九五二年より百三十四億元しかふえていない。基本建設への投資は、一九五八年には二百二十億元以上完成できる見込みであつて、第一次五カ年計画の期間中における投資総額四百九十二億元のなかばにちかひ。

総会は、一九五八年のわが国の工農業生産と科学・文化・教育事業の各方面における大躍進、人民大衆の社会主義・共產主義的自覚の大々の向上、および今年の夏から秋にかけてあらわれた人民公社化の高まりは、党の社会主義建設の総路線の偉大な勝利であり、全人民的な整風運動の偉大な成果であることを指摘した。わが国の経済建設の成果は、ソ連および各兄弟

国の援助ときりはなすことはできない。今年のわが国国民経済の飛躍的發展は、党の、重工業を優先的に發展させることを基礎として、工業と農業を同時に發展させる方針、重工業と軽工業を同時に發展させる方針、工業戦線では鋼鉄生産をかなめとして全面的に躍進させる方針、中央の工業と地方の工業を同時に發展させる方針、大型企業と中・小型企業を同時に發展させる方針、在來の方式による生産と現代的な方式による生産を同時に發展させる方針、および工業の面における集中的指導と工業の面において大衆運動をさかんにおこすこととむすびつけなければならぬという方針、一言にしていえば、二本の足で歩くという方針であつて、一本の足や一本半の足で歩く方針ではない、こういうまとまつた方針が正しいことを証明している。一九五八年のわが国工農業生産の大躍進は、偉大な実践である。この実践をつうじて、われわれは、多く、はやく、りつぱに、ムダなく社会主義を建設するひろびろとした大道をさがしあてたばかりでなく、このひろびろとした大道でゆたかな経験をした。これによつてわれわれは、一九五九年においてひきつづき躍進しうるばかりでなく、いつそりつぱに躍進しうるであらう。

総会は、一九五八年の偉大な勝利とゆたかな経験を基礎として、一九五九年の社会主義経済建設においては、ひきつづき保守に反対し、盲信をうちやぶり、党の社会主義建設の総路線をつらぬきとおし、工業と農業を同時に発展させ、重工業と軽工業を同時に発展させ、中央の工業と地方の工業を同時に発展させ、大型企業と中・小型企業を同時に発展させ、現代的な方式による生産と在來の方式による生産を同時に発展させる方針をひきつづき実行し、工業のなかでは鋼鉄生産をかなめとし、全面的に躍進させる方針および集中的指導と大衆運動をさかんにおこすことをむすびつける方針をひきつづき実行するよう指摘した。それと同時に、経済計画を十分確実な基礎のうえにうちたてることにとつとめ、また、国民経済の各部門がつりあいをたもつて発展するという客観的な法則にもとづき、それぞれの指標がたがいに適当な割合をたもつように努力する必要がある。中央委員会総会は、これらの方針と原則にもとづいて、一九五九年の国民経済発展についてのいくつかの主な指標をつぎのように提出した。それは、鋼の生産量を今年の予定生産量である千百万トン前後から千八百万トン前後に、石炭の採炭量を今年の予定採炭量である二億七千万トン前後から三億八千万トン前後に、食糧の收穫高を今年の

予定量である七千五百億斤前後から一兆五百億斤（訳注Ⅱ五億二千五百万トン）前後に、綿花の收穫高を今年の予定量の六千七百万担前後から一億担（訳注Ⅱ五百万トン）前後にそれぞれふやすことである。総会は、主管部門に、これらのおもな指標にもとづき、一九五九年における国民経済ぜんたいの発展上の必要とわが国の物質的、技術的条件にもとづいて、一九五九年の国民経済計画をたて、これを第二期全国人民代表大会第一回会議に提出し、その討議にかけて採択をもとめるよう指令した。

毛沢東同志が一貫して唱道してきた、戦略上では困難を蔑視し、戦術上では困難を重視しなければならぬし、天をつく意気込みをもつとともに、科学的に分析する精神も必要であるということにもとづいて、総会は、一九五九年の国民経済計画を実現するために、われわれがぜひとも、ひきつづき保守に反対し、盲信をうちやぶり、大胆に考え、大胆に言い、大胆にやつてのけ、大いに意気込み、つねに高い目標をめざすことを提唱しなければならぬし、かならず戦略上では困難を蔑視しなければならぬのであつて、これはゆるぎない方針であることを指摘した。それと同時に、われわれはまた、戦術上ではかならず困難を重視して真剣に、全力



をうちこみ、困難にめげず、巧妙にやりとげることが提唱し、「十分な目標、十二分の措置」を提唱し、実際にそくした計算、按配、点検を提唱し、誇張することに反対し、欠点をかくすことに反対しなければならぬ。経済工作はかならず、ますます緻密にやらなければならぬし、かならずできるかぎり現実にちかづけるか、あるいはこれに合致させるようにしなければならない。

総会はさらに、一九五九年の計画を実現するためには、ひきつづき、あくまで政治がすべてを統率し、大衆にたよるようにしなければならぬし、建設にあたってはひきつづき大衆路線をとり、大衆運動をくりひろげ、全党、全人民は一致して努力し、いつさいの局部的利益は全体の利益に服従しなければならないことを指摘した。

総会は、上にのべたおもな指標にもとづいてつくられる一九五九年の国民経済計画は雄大な躍進計画になることをみとめた。総会は、全党、全人民が一致団結し、一九五八年の勝利の道にそつて英雄的に奮闘し、一九五九年の国民経済計画を完遂し、さらに超過完遂して、わが国が、苦戦三年の決定的な年に、一九五八年よりさらに偉大な躍進を実現するようにすることを

よびかけた。総会は、わが国人民が、この光栄ある任務をきつとやりとげうることをかたく信じている。

第八期中央委員会第六回総会は、十分に、多方面にわたつて考慮したすえ、毛沢東同志のおこなつた、次期の中華人民共和国主席の候補者にならないことについての提案に同意することに決定した。総会が採択したこの問題についての決定は、これがまったく積極的な提案であることを指摘している。なぜなら、毛沢東同志が国家主席の職務を担当しないで、もつぱら党中央の主席を担当することによつて、いつそう精力を集中して、党と国家の方針、政策、路線の問題を処理することができ、また、より多くの時間をさいてマルクス・レーニン主義の理論工作に従事することもできるようになり、国務にたいしては、ひきつづき指導的な役割をはたさまたげにはけつしてならないからである。こうすることは、全党ならびに全国人民のいずれにとつてもいつそう有利である。

総会は、農村における財政・商業管理体制を改善することについての決定を採択した。この決定は、国務院に提出され、討議、採択されたのち、中国共産党中央と国務院から共同で発表

される。

第八期中央委員会第六回総会にはさらに、国際情勢について討議した。総会は、最近における国際情勢の發展は、平和の力が戦争の力よりも大きく、進歩の力が反動の力よりも大きいことを一段と証明しており、全世界の人民と、平和を愛し、平和共存を主張し、戦争を欲しないすべての人びとを一段とふるいたたせており、そして、戦争屋を空前の孤立した地位におとしつけていることを指摘した。帝国主義陣營の内部では矛盾が山積しており、かれらのいわゆる「團結」は、まさにそれとは反対の方向、すなわちしだいに四分五裂へとむかう過程にあり、この過程はまだかなりながいものであるが、しかし全般的な趨勢としてこれはさげられないのである。日ましに増大する強大な平和の力と社会主義の力と民族革命の力をまえにして、帝国主義者はいまや大恐慌をきたしている。かれらはひじょうに困りきつている。まさしく、毛沢東同志がこんどの総会でのべたように、国際情勢の全般的な特徴は、「敵が日一日とくさされてゆき、われわれは日一日とよくなつていく」のである。

総会は、すぐる一年間に、平和と解放をめざす全世界人民の闘争がひじょうに大きな發展を

とげたことを指摘した。アジア、アフリカ、ラテン・アメリカの人民の、植民主義に反対し、民族の独立をめざす闘争は、ひきつづき高まつている。さいきんの、フランスその他のいちぶの国々における反動的な政変は、けつして反動派の強さをしめすものではなくて、かれらがくされはて弱くなつていふことをしめすものである。かれらはいまや、人民の「逆の面からの教師」の役をしており、かれらの反動的な行爲をつうじて人民に教訓をえさせ、人民がいつそう自覚をたかめ、團結しないわけにはいかないようにしむけている。帝国主義の戦争氣遣いと反動派の冒險やあがきは、いずれもかれらをさいごの滅亡から救いだすことはできない。アメリカ帝国主義が台湾に居座つて出てゆこうとしなはゆるるされないことである。もしもアメリカ侵略軍がみずから撤退しないならば、大陸と台湾にいる中国人はついに團結してかれらを追いだしてしまうであろう。同様に、アメリカ帝国主義が、南朝鮮、南ベトナム、日本、フィリピン、西ベルリン、西ドイツ、西ヨーロッパ、北アフリカ、中東およびその他の外国の軍事基地に居座つて出てゆこうとしないのはゆるるされないことである。もしもアメリカ侵略軍がみずから撤退しないならば、同様に、各国人民はきつと團結してかれらを追いだしてしまうであ

ろう。

総会は、すぐる一年間に、ソ連を先頭とする社会主義陣営が一段と強大になり、その団結がいつそうかたくなつたことを満足の意をこめて指摘した。帝国主義反動派と修正主義者のあらゆる挑発、呪詛罵倒、破壊はみな失敗を運命づけられている。総会は、ソ連共産党中央のうち出した、一九五九年から一九六五年にいたるソ連国民経済発展計画に大きなよろこびを感じており、これは偉大な歴史的意義をもつた共産主義建設のための綱領であるとなみなしている。この計画は、進歩的な人びとの崇高な希望とうるわしい未来を代表しており、この計画の実現によつて世界の力関係は大きく改められ、人類が戦争を制止する平和事業にとつてひじょうに有利となろう。総会は、社会主義と資本主義の平和競争のなかで、社会主義が資本主義にかならず勝つことをふかく信じている。

(一九五八年十二月十八日づけ「人民日報」所載)

## 人民公社の若干の問題に関する決議

(中国共産党第八期中央委員会第六回総会で採択、一九五八年十二月十日)

一

一九五八年、一つの新しい社会組織が、のぼる朝日のように、アジア東部のひろびろとした地平線にあらわれた。これがすなわち、わが国農村における大規模な、工業、農業、商業、文化・教育、軍事をむすびあわせた、行政と社務とが合体した人民公社である。それが出現すると、その強大な生命力で、ひろく人びとの注意をひいた。

人民公社運動の発展はひじょうにはやい。一九五八年の夏からはじまつて、わずか数カ月のあいだに、全国七十四万余の農民生産協同組合はすでに、広はんな農民の熱烈な要求をもとと

して、二万六千余の人民公社に改組された。公社に参加したものは一億二千余万戸にたつし、全国各民族の農家総数の九九パーセント以上をしめている。この状況は、人民公社の出現が偶然ではなくて、それはわが国の経済、政治の発展の産物であり、党の社会主義整風運動、社会主義建設の総路線および一九五八年における社会主義建設の大躍進の産物であることをしめしている。

農村の人民公社ができてからまだ間もないが、しかし広はん農民はそのもたらしたいちじらしい利益をすでに見てとつている。それは、労働力と生産手段をいっそう広範囲にわたつて統一的に按配し、調達することができ、これまでよりもいっそう合理的に、いっそう効果的に使用できるため、生産を發展させるのにより好都合になつたこと、工業、農業、商業、文化・教育、軍事の各事業（このなかの農業には農業、林業、畜産業、副業、漁業の五つをふくむ）は、公社の統一的な指導のもとに、密接にむすびつき、急速に發展をとげ、とりわけいく千いく万という小工場が農村にぞくぞくとつくられたこと、公社は広はん大衆のさしせまつた要求にこたえて、大量の共同食堂、託児所、幼稚園、敬老院などの集団福祉事業をおこし、これ

によつて、とくに、数千年らい、鍋釜のそばにかがみこんでいた婦人が徹底的な解放をかちとつて、顔をほころばせるようになったこと、多くの公社は農業の大豊作のうえにたつて、賃金制と現物給与制をむすびつけた分配制度を実施しており、広はん男女農民ははじめて自分自身の賃金をうけとるようになり、そしていぜんいつも飲食の心配や、薪、米、油、塩、味噌、酢、野菜の心配をしていた家庭もこれからは「食事はタダ」になり、つまり、もつとも重要な、もつともたしかな社会保険をうけるようになったことなどである。これらはすべて、農民にとつては、前代未聞のニュースである。農民の生活はすでに改善されており、しかも実際の経験と公社の發展の未來図によつて、かれらはその生活がこんごも大々的に改善されることを知つているのである。

農村の人民公社制度の發展には、さらにもつと深遠な意義がある。すなわち、それは、わが国の人民に、農村がしだいに工業化してゆく道、農業における集団的所有制がしだいに全人民的所有制へ移行する道、社会主義の「労働におうじた分配」（つまり、労働におうじて報酬を支払うこと）からしだいに共産主義の「必要におうじた分配」（つまり、必要におうじて受け

とること)へ移行する道、都市と農村との差異、工業と農業との差異、頭脳労働と肉体労働との差異がしだいに小さくなり、しまいにはなくなつてゆく道、および国家の対内的な機能がしだいにちいさくなり、しまいにはなくなつてしまふ道をさし示していることである。

これらはすべて、中国共産党中央政治局が一九五八年八月の北戴河会議で、大衆の創造にもとづいておこなつた、農村に人民公社をつくることについての決議が正しいものであり、歴史的な意義をもつものであることを証明している。

人民公社はいま、すべての民族の農村で(チベットといくつかの個別的な地区をのぞく)あまねくつくられており、都市でもいくつかその試みがなされはじめている。都市の人民公社も、將來は都市の特徴に適した形態をとつて、古い都市を改造し、社会主義の新しい都市を建設する手段となり、生産、交換、分配および人民の生活・福祉の統一的な組織者となり、工業、農業、商業、文化・教育、軍事をむすびあわせた、行政と社務の合体した社会組織となる。しかし、都市は農村とちがうところがある。ひとつには、都市の事情は農村よりも複雑である。ふたつには、社会主義の全人民的所有制が都市ではすでに所有制のおもな形態となつて

おり、労働者階級の指導する工場、機関、学校(いちぶの労働者・職員の家族をのぞく)はすでに社会主義の原則にもとづいて高度に組織化されているため、都市の公社化には農村とはちがつた要求が出されないわけにはいかない。三つには、いまのところ都市の資本家と知識人の多くはブルジョア思想がいまだにかなり濃厚であり、かれらは公社をつくることについてまだ懸念をもつており、この部分の人たちにたいしてはわれわれとしてもこしはらく待つてやるべきである。したがつて、都市ではひきつづき実験をおこなうべきで、一般にはいそいで大量につくることはせず、大都市のばあいはなおさらゆつくりやるべきで、下準備をするだけにとどめておく。経験がゆたかになり、がんらい納得のゆかなかつたものも納得するようになってから、大量につくるようにすべきである。

すでにつくられた農村の人民公社は、できてからまだ時間がひじょうに短かく、ほとんどの公社はできるとすぐに秋の收穫、秋耕、秋のたねまき、全人民的な製鋼製鉄といったはりつめた仕事に迫られたため、まだ組織をかため、制度を健全にし、公社ができたために生じた生産、分配、生活・福祉、経営管理などの面の新しい問題を系統的に解決する余裕がなかつた。

人民公社をいかにうまく経営し発展させるかについては、みな経験がまだたりず、ある問題についての認識もいくぶんまちまちなのはまぬかれがたい。当面の急務は、全党と全人民公社についての認識をやく統一し、公社にたいする指導をつよめ、公社の組織を整備し、強固にし、公社の制度を確立し、健全にし、公社の生産と生活をいつそうよく組織することである。すでに骨組ができた公社はしつかり充実させて、生産力と生産関係の発展を促進するという、その担っている、偉大な使命をますます立派にはたせるようにしなければならない。

## 二

人民公社は、わが国の社会主義的社会構造の工業、農業、商業、文化・教育、軍事をむすびあわせた基礎単位であると同時に、社会主義権力機構の基礎単位でもある。マルクス・レーニン主義の理論とわが国における人民公社の初歩的な経験からして、いまのところ、人民公社はわが国の社会主義建設の速度をはやめるとともに、わが国が以下の二つの移行を実現する最良の形態となることが予想される。すなわち、第一は、わが国の農村を集団的所有制から全人民

的所有制へ移行させる最良の形態となり、第二は、わが国を社会主義社会から共産主義社会へ移行させる最良の形態となることである。また、将来の共産主義社会においても、人民公社はやはり社会構造の基礎単位であることがいまから予想できる。

これからさき、わが国人民のまえにおかれている任務は、人民公社というこうした社会の組織形態をへて、党がうち出した社会主義建設の総路線にもとづいて、高速度に社会の生産力を発展させ、国の工業化、公社の工業化、農業の機械化・電化をうながし、しだいに社会主義の集団的所有制を社会主義の全人民的所有制へと移行させ、これによつてわが国の社会主義経済の全人民的所有制を全面的に実現し、しだいにわが国を高度に発達した現代工業、現代農業および現代科学・文化をもつ偉大な社会主義国へとときずきあげることである。この過程で、共産主義の要素がかならずしだいに増大してゆき、これによつて物質的条件の面と精神的条件の面で社会主義から共産主義へ移行するための基礎がきざされるのである。

これはきわめて大きな、複雑な任務である。いまある経験から見て、わが国の具体的な条件下で、社会主義の全人民的所有制を全面的に実現する時期はいくぶん早くなるであろうが、と

いつてひじように早いということはありえない。国の工業化、公社の工業化および農業の機械化・電化を広げんに実現し、高度に発達した現代工業、現代農業および現代科学・文化をもつ社会主義国をきざきあげるうえで、われわれの前進速度はわりあいはいにせよ、これに要する時間はやはりひじようにながしいし、この過程をぜんぶおわるには、いまから十五年、二十年、あるいはそれよりもいくらか長い期間を要するであろう。

帝国主義者とその追隨者は、われわれが高度に発達した現代工業、現代農業および現代科学・文化をもつにはこれだけの期間では短かすぎる、われわれは目的を達成できまい、というであろう。こういったご念仏は、われわれはとづくに聞きなれてはいるし、相手にしなくてもよい。なぜなら、かれらはたえず事実のまゝにへこまされるのがおちだからである。しかし、そのほかにまた、それでは期間がながすぎる、というものもあるだろう。これはわれわれ自身の隊伍のなかにいる善意の人であるが、ただ、あまりにもせつちかすぎる。かれらは、高度に発達した現代工業などをひじように甘く見、社会主義の全人民的所有制の全面的な実現、はては共産主義の実現をひじように甘く見ているのである。かれらは、農村の人民公社は現在すでに

全人民的所有制の性質のものであり、労働におうじて分配をうける社会主義の原則をすぐに、はなはだしいのになるとたつたいまからでも放棄し、必要におうじて分配をうける共産主義の原則を採用できると思っている。このためかれらは、社会主義制度がまだ長期間つづくものであるということが理解できないように思えるのである。これはもちろん一種の誤解であつて、こうした誤解はとりのぞかなければならない。

ぜひ指摘しておかなければならないのは、農業生産協同組合から人民公社への切りかえ、社会主義の集団的所有制から社会主義の全人民的所有制への移行、社会主義から共産主義への移行、これらは、相互に関連しながらも、それぞれことなつたいくつかの過程だということである。

まずさいしよに、農業生産協同組合が人民公社に轉じたことによつて、もとの集団的所有制は拡大され高められるとともに、全人民的所有制の要素をいくらかおびてくるようになつたが、だからといつて、このことはけつして農村における集団的所有制を全人民的所有制にかえたことにはならない。いま全国の農村はすでに公社化しているが、しかし全国の農村で全人民

的所有制を実現するには、まだかなりの期間を経なければならぬ。

なるほど人民公社の設立によつて、集団的所有制の経済には全人民的所有制の要素がいくらかふえた。これは、農村の人民公社と基礎権力が一つに合体したこと、農村にもとからある全人民的所有制の銀行、商店、その他ある種の企業を公社の管理下においたこと、公社がある種の、全人民的所有制の性質をもつ工業やその他の建設事業をおこすようになったこと、多くの縣には全縣の公社を統一的に指導する縣連合公社ができ、縣連合公社は各公社の人力、物力、財力の適切な部分を調達して、全縣にわたる、あるいは縣の範圍をこえる建設事業をおこなう権限をもつとともに、多くの地方ですですにこれらの事業に着手していることなどによるものである。だか、農村の人民公社の生産手段と生産物は、いまのところ基本的にはやはり公社の集団的所有にぞくしており、国营企業の生産手段と生産物が全人民的所有にぞくしているのはちがう。集団的所有制と全人民的所有制はいずれも社会主義的所有制であるが、全人民的所有制の方が集団的所有制よりいつそうすすんだものである。なぜなら、全人民的所有制の企業が生産手段と生産物は、全人民を代表する国家が、直接国民経済ぜんたいの必要にてらして統

一的に、合理的に分配をおこなうことができるが、集団的所有制の企業では、いまの農村の人民公社をふくめて、これがやれないからである。いまの農村の人民公社の所有制をすでに全人民的所有制であると考えるのは、実際状況に合致しないものである。

集団的所有制から全人民的所有制への移行をしないで促進するため、各縣は、あまねく縣連合公社をつくるべきである。縣連合公社は、こんご若干年のうちに、大いに生産を發展させ、人民の自覚を高めたそのうえで、適当な措置をこうして、公社の生産手段の全人民的な部分をしてにふやし、公社の生産物の、国家が統一的に分配する部分をしてにふやしてゆくとともに、条件が熟したさいに集団的所有制を全人民的所有制にきりかえるべきである。時をうつさずこうした切りかえを發展させ、完了させないで、いつまでも集団的所有制の現状を維持し、公社の社員の目をわりあい小さな範圍の集団的利益の枠内に局限させておくならば、それは社会の生産力の継続的な發展と人民の自覚の継続的な向上をさまたげることになり、したがつて、妥当ではない。しかし、集団的所有制がこんちの農村の人民公社の生産の發展にとつてやはりその積極的な役割をもっていることを指摘しておかなければならない。集団的所有



制から全人民的所有制への移行がおそいか早いかは、生産発展の水準と人民の自覚の水準という、これらの客観的に存在する情勢によつて決定されるのであつて、おそくしたければおそくし、早くしたければ早くするといつた、人びとの主観的な願望によつて左右されるものではない。したがつて、この移行には相当ながい期間をかけて、はじめて全国的な範囲で、時期と回数をわけて実現することができるのである。もしもこうしたことが見えないで、公社の設立と全人民的所有制の実現をいっしょくたにし、あまりにもせつちかちになつて、農村であまりにもはやく集団的所有制を否定し、そそくさと全人民的所有制にあらためようとするならば、これもまた妥当ではないし、したがつて成功をおさめることはできない。

つぎに、社会主義の集団的所有制から社会主義の全人民的所有制に変わることは、社会主義から共産主義に変わることにはならない。農業生産協同組合が人民公社に変わるとは、社会主義から共産主義に変わることにはなおさらならない。社会主義から共産主義に変わるには、社会主義の集団的所有制から社会主義の全人民的所有制に変わるよりも、ずつとながら期間を必要とする。

なるほど、人民公社の実施する現物給与制には、共産主義的な、必要におうじて分配をうけ

る原則のめばえをともしないはじめており、人民公社の実施する、工農業を同時に発展させ、互いにむすびつける方針は、都市と農村との差異、工業と農業との差異を小さくする道をきりひらいており、農村の人民公社が社会主義の集団的所有制から社会主義の全人民的所有制に移行したのは、その共産主義的要素があらたに増大するのであつて、これらはいずれも当然とめるべきである。さらにまた、社会の生産物が、全国の工農業の日ましに高まるのにもなつて、しだいにゆたかでない状態からゆたかになり、公社の分配制度のなかの現物給与の部分の範囲がしだいにひろくなり、現物給与の標準がしだいに低いところから高くなり、そしてまた、人民の共産主義的自覚が日ましに高まり、全人民の教育がますます発展をとげ、頭脳労働と肉体労働との差異がしだいに小さくなり、国家権力の対内的な作用がしだいに小さくなつてゆく等々、これら一切にともなつて、共産主義への移行を準備する条件もまた、しだいに成熟してくる。この発展過程をながしるに、はてはこれをさまざまに、共産主義をはるか遠い将来におしやるのは、もちろん妥当ではない。

しかし、すべてのマルクス主義者は、社会主義から共産主義に移行するまでは相当ながい、

相当複雑な発展の過程であつて、この全過程をつうじての社会の性質はやはり社会主義的なものである、ということをはつきり認識しておかなければならない。社会主義社会と共産主義社会は、経済上発展の程度をことにする二つの段階である。社会主義の原則は「各人は能力におうじて働き、労働におうじて分配をうける」ことであり、共産主義の原則は「各人は能力におうじて働き、必要におうじて分配をうける」ことである。共産主義の分配制度はいつそう合理的であるが、しかし、これは社会の生産物がきわめて豊富になつてのちはじめて実現できるものである。この条件がないのに、労働におうじて分配をうける原則を否定することは、人びとの労働にたいする積極性をさまたげることになり、生産の発展にとつて不利になり、社会の生産物の増加にとつて不利になり、また共産主義の実現をうながすうえにも不利になるのである。したがつて、人民公社の社員の収入のうち、労働におうじて分配をうける賃金の部分は、ないあいだにわたつて重要な地位をしめなければならないのであつて、ある期間内は主要な地位をしめることとなる。社員の労働にたいする積極性をうながすため、そしてまた、生活上における社員の複雑な需要をわりあい容易に満足させるため、公社は社員のうけとる賃金をした

いにふやしてゆくよう努力するとともに、若干年のうちに、現物給与の部分よりもいつそうはやくふやしてゆかなければならない。たとえ集団的所有制から全人民的所有制へ移行したのちでも、社会の生産物がまだ共産主義を実現するほどにゆたかでないため、人民公社は、必要な歴史の期間内やはり労働におうじて分配をうける制度を保留することとなる。時期尚早に労働におうじて分配をうける原則を否定し、必要におうじて分配をうけるという原則にとつかわらせようとすること、つまり、条件の熟さないうちにむりやり共産主義にはいろうとするのは、疑いもなく、成功することのできない空想である。

社会主義の集団的所有制から社会主義の全人民的所有制への移行にせよ、社会主義から共産主義への移行にせよ、すべて一定の程度の生産力の発展を基礎としなければならない。生産関係はかならず生産力の性質に適合すべきであつて、生産力があるところまで発展してはじめて、生産関係のある種の変革をひきおこす、これはマルクス主義の基本原理のひとつである。

同志諸君は、わが国の現在の生産力の発展水準はなんといつてもまだきわめて低いのだということを頭にいれておかなければならない。苦戦三年、そのうえさらに若干年間の努力をへて、

全国経済の様相はきわめて大きく変貌するようになるが、しかしそのときでも、全国の高度の工業化、全国の農業の機械化・電化の目標までにはまだすくなく距離がある。そして、社会の生産物がひじょうに豊富になり、労働の強度がいちじるしく軽減し、労働時間が大幅に打ちめられるといったこれらの諸目標にいたつては、さらに大きな距離がある。ところで、これらなしには、人類社会のいつそう高い発展段階である共産主義にはいるのを云々することはもちろんできない。したがつて、われわれは、共産主義の事業に熱心である以上、まずわれわれの生産力を発展させることに熱心であり、まず力をいれてわれわれの社会主義的工業化計画を実現させなければならないのであつて、農村の人民公社は「ただちに全人民的所有制を實行する」とか、はては「すぐに共産主義にはいる」などといったことをなんの根拠もなしに宣言すべきではない。そうすることは、一種の軽率さの現れであるばかりでなく、人民の心中にある共産主義の標準を大々的にひきさげ、共産主義の偉大な理想をゆがめ、凡俗化し、小ブルジョアの平均主義の傾向を助長し、社会主義建設の発展にとつて不利である。

社会主義から共産主義へ移行する問題で、われわれは社会主義の段階で足ぶみしてはならな

いが、それかといつて、社会主義の段階をとびこえて共産主義の段階に飛躍するという空想におちいつてもならない。われわれは、マルクス・レーニン主義の連続革命論者であつて、民主主義革命と社会主義革命とのあいだ、社会主義と共産主義とのあいだに、これをへだてる万里の長城はないし、またあつてはならない、と考へている。われわれはまた、マルクス・レーニン主義の、革命発展の段階論者であつて、ことなつた発展段階は事物の質的変化を反映するものであり、これらの質的にことなつた段階をたがいに混同すべきでないと考へる。中央政治局の、農村に人民公社をつくる問題についての八月の決議のなかには、人民公社が「集団的所有制から全人民的所有制へ移行するのはひとつの過程であつて、地方によつては比較的にはやく、三、四年でおわるころもあるが、地方によつては比較的におそく、五、六年あるいはもつと長い期間を要するところもある。全人民的所有制へ移行しても、たとえば国营工業のほうに、その性質はやはり社会主義的なものであつて、各人は能力におうじて働き、労働におうじて分配をうける。それからさらに何年か経過して、社会の生産物がきわめてゆたかになり、人民ぜんたいの共産主義的自覚と道德的品性が大いに高まり、人民ぜんたいの教育が普

及、向上し、社会主義の時期にはまだ残しておかないわけにはいかない、旧い社会からのこされた工業と農業との差異、都市と農村との差異、頭脳労働と肉体労働との差異、がいずれもしいになくなり、こうした差異のあらわれである不平等なブルジョアの権利の残余もしいになくなり、国家の機能がただ外敵の侵略に対処するだけで、対内的にはもはや作用をはたさないようになれば、このとき、わが国の社会は、各人は能力におうじて働き、必要におうじて分配をうける共産主義の時代にはいることになるであろう」とはつきり指摘している。当面の人民公社の問題についてのいくつかの誤解をとりのぞき、人民公社運動の健全な発展を保證するためには、真剣にこうしたマルクス・レーニン主義の観点をもつて、全党および全国人民のあいだにひろく、くりかえし宣傳と教育をおこなわなければならない。

### 三

人民公社の生産、交換、消費および蓄積には、いずれも計画がなければならない。人民公社の計画は、国家の計画にくみこまれ、国家の管理に服従すべきである。それと同時に、公社が

計画をたてるさいには、自己の特徴と主動的な精神を十分に發揮すべきである。

生産を發展させることが、人民公社を強固にし向上させる中心の環である。人民公社が生産を發展させるうえでの正しい方針は、国家の統一的な計画とその土地の具体的条件にあわせるという原則にもとづき、勤儉をむねとして公社の運営をおこなうという原則にもとづいて、工業と農業を同時に發展させ、自給のための生産と商品化のための生産を同時に發展させるものでなければならない。どの方面の生産においても、基本建設においても、いずれも節約を勵行し、綿密にもくろみ、できるかぎり人力、物力、財力を合理的に利用し、原価をひき下げ、支出を節減し、収入をふやし、いちぶの公社の要員が豊作のためにせいたくや浪費をする現象を防止し、これに反対しなければならない。

農業生産の面では、しだいに、浅く耕し、ぞんざいに耕作し、作付面積は大きいが收穫はすくないのをあらためて、深く耕し、入念に耕作し、作付面積はちいさいが收穫は多いようにし、耕作の園芸化と生産過程の機械化、電化を實現し、單位面積あたりの收量を大幅にひきあげ、労働生産性を高め、しだいに、耕地面積と農業面にふりあてる労働力を減らしていくべき

である。比較的短い期間内に、毎年、全国の食糧の収量を人口平均一人あたり二千斤ないし三千斤、すなわち一トンないし一・五トンにたつするよう奮闘すべきである。食糧問題の解決にともなつて、綿花、麻、蚕糸、大豆、榨油原料、製糖原料、茶、葉煙草、薬材などの工業用原料作物が全農業生産のなかでしめる比重をしいに高めるとともに、林業、畜産業、副業、漁業の発展をはやめることにもきわめて大きな注意をばらうべきである。要するに、工業戦線におけるおなじように、農業、林業、畜産業、副業、漁業の五つの方面で全線にわたる大革命をおこない、全農業戦線の様相を徹底的にかえなければならぬ。

いぜん人びとは、われわれの人口が多く、耕地のすくないことをつねになやんでいた。しかし、一九五八年における農業の大豊作の事実は、そうした断定をくつがえしてしまつた。深く耕し、入念に耕作し、層状に施肥し、合理的な密植をおこなつてひじような多收穫をあげた経験を真剣におしひろめてゆきさえすれば、耕地はすくないのではなく、多いということになり、人口は多いどころか、労働力の不足が感じられるようになるのである。これはきわめて大きな変化になる。若干年のうちに、地方の条件にもとづいて、いまの農作物の作付面積をしだ

いに減らし、たとえば三分の一前後にして、のこりの土地のいちぶは休閑させ、これに牧草や緑肥作物を植え、他のいちぶの土地には植樹や造林をおこない、貯水池をつくつて水をたくわえ、平地や山上、水面にはいづれも色とりどりの觀賞用植物を大々的に植え、大地を園林化するよう努力すべきである。こうすれば、ひとつには、農地で大いに水を節約し、肥料を節約し、労力を節約することができるばかりでなく、地力を大々にますことになり、ふたつには、山水草木の利を大いに興し、農業、林業、畜産業、副業、漁業の総合経営を大々的に発展させることができ、三つには、自然の環境を改造して全中国を美化することができる。これは実現可能な偉大な理想であつて、全国農村の人民公社はおしなべてこれがために努力すべきである。

人民公社は大いに工業を經營しなければならぬ。公社の工業の発展は、国の工業化の進度をはやめるばかりでなく、農村で全人民的所有制の実現をうながし、都市と農村との差異を小さくするであろう。それぞれの人民公社のことなつた条件にもとづいて、しいに適當な量の労働力を農業面から工業面にうつし、肥料、農薬、農具および農業機械、建築資材、農産物の

加工および総合的利用、製糖、紡績、製紙や採鉱、冶金、電力などの軽工業、重工業の生産を計画的に発展させるべきである。人民公社の工業生産は、農業生産とたたくむすびつけ、まず農業の発展と農業の機械化、電化の実現に奉仕すると同時に、社員の日常生活上の需要をみたすために奉仕し、また国の大工業と社会主義の市場に奉仕しなければならない。その地方の具体的な条件に即應し、現地で原料を入手するという原則に十分注意を払うべきであつて、地もとに原材料がなく、ひじょうに遠いところまで行つて原材料を入手しなければならないような工業は経営しないようにし、原価がかさみ、労働力をむだにすることがないようにしなければならぬ。生産技術の面では、手工業と機械化した工業をむすびつけ、在來の方式による生産と現代的な方式による生産をむすびつける原則を實行すべきである。およそ、もとから基礎があつてしかも將來性のある手工業はせひともこれをひきつづき発展させるとともに、しだいに必要な技術改革をおこなわなければならない。機械化した工業でも、在來の方式でつくつた鋼、鉄、工作機械およびその他各種の在來の、原料、設備、やり方を十分に活用し、在來のものから現代的なものへ、小から大へ、低いところから高いところへとしだいに移してゆ

くようにしなければならない。

人民公社は、工業面と農業面とをとわず、直接自分の公社の需要をみたす自給のための生産を發展させなければならないし、また、商品化のための生産もできるだけひろく發展させなければならない。各公社は、自己の特徴にもとづき、国家の指導のもとに、他の公社や国营企業とのあいだに必要な生産上の分業と商品の交換をおこなうべきである。こうしてこそ、社会経済せんとたいがはじめてよりはよい速度で發展することができるし、各公社も必要な機械と設備を、交換をつうじて入手し、農業の機械化、電化を実現することができるし、また、所要の消費物資と現金を、交換をつうじて入手し、これによつて社員の需要をみたし、賃金を支払い、そしてまた賃金をしだいにふやしてゆくことができるのである。交換計画の実現を保證するためには、国家と公社とのあいだ、公社と公社とのあいだで、ひろく契約制度を實行しなければならない。

とくに指摘しておかなければならないのは、こんご必要な歴史的期間内に、人民公社の商品生産、ならびに国家と公社、公社と公社とのあいだの商品の交換はひじょうに大きく發展をと

げなければならぬ、ということである。こうした商品生産と商品の交換は、資本主義の商品生産、商品の交換とはおなじでない。なぜなら、それらは社会主義的公有制の基礎のうえにたつて計画的におこなわれるものであつて、資本主義的私有制の基礎のうえにたつて無政府状態でおこなわれるものではないからである。ひきつづき商品生産を發展させ、ひきつづき労働におうじて分配をうけるという原則を維持することは、社会主義経済を發展させるうえでの二つの重要な原則的な問題であつて、ぜひとも全党において認識を統一しなければならない。いちぶの人は、時機尙早に「共産主義に入ることを企図するとともに、時機尙早に商品生産と商品の交換を廃止し、時機尙早に商品、価値、貨幣、価格のもつ積極的な作用を否定しよう」と企図しているが、こうした考え方は社会主義建設の發展にとつて不利であり、したがつて正しくないものである。

#### 四

農村の人民公社は、勤儉をむねとして公社の運営をおこなうという原則のもとに、その収入

を正しく分配すべきである。生産を急速に發展させるため、総収入から生産費、管理費および納税額をさしひいたのち、蓄積の割合を適度に大きくすべきである。しかし、生産の發展の基礎のうえに、同時に、収入のなかでの、社員の個人的な消費と集团的な消費にあてる部分（公共福祉、文化・教育などの事業につかう部分をふくむ）を年々ふやして、人民の生活が年ごとに改善されるようにすべきである。

社員の個人の消費にふりむける部分は、賃金制と現物給与制をむすびつけた分配制度を実施しているが、これは、わが人民公社の社会主義的分配方式のうえでの創舉であり、いま、広はんな社員大衆の切に要求しているところである。まえにも述べたように、こうした分配制度は、共産主義の萌芽をそなえてはいるが、その基本的な性質はやはり社会主義的なもの、すなわち各人はその能力におうじて働き、労働におうじて分配をうけるものである。

社員に分配する総額のうち、賃金の部分と現物給与の部分とのわりふりは、各公社の生産發展のことなつた状況にもとづいて決定しなければならない。いまのところ、賃金と現物給与との割合をきめるさいには、労働力はつよいが人数のすくない所帯の収入ができるだけ減らない

ように注意をばらうべきであり、一般的には、九割以上の社員の収入が前年よりふえ、その他の社員の収入も前年より減らないようにすべきである。

現物給与の範囲は、いまのところあまりひろげないがよい。現物給与制を実施するのは、けつして人びとの生活を画一化することではない。社会主義と共産主義の制度のもとでは、人びとの需要は総じてはおおなじではあるが、また、それぞれちがうところもある。したがつて、いまも將來も、現物給与の範囲内で、できるだけ社員が適宜に選択する自由をもつように注意をばらわなければならない。

生産の発展にともなつて、賃金をしだいにふやしてゆかなければならない。現物給与の部分のぞき、いまのところ、農村での賃金の等級は、一般に六級ないし八級にわたることができ。最高賃金は最低賃金の四倍か、あるいは倍数をもすこしくしてもよいが、あまり大きなひらきがあつてはならない。なぜなら、そうすることは、いまの農村での労働の熟練度の高低のちがいの実情にあわないからである。各地区間の賃金水準はそれ相應にちがいがあつてもかまわない。いまのところ、都市における賃金のひらきは農村のそれよりいくらか大きい、こ

れは必要なことである。將來、生産が大々的に高まつて、すべての人がゆたかになれば、都市でも農村でも、こうした賃金等級の差は、必要でなくなつてくるであらうし、そして、しだいに消滅する方向にむかうのであつて、そうなれば、共産主義の時代にちがづくわけである。

都市の賃金水準は一般に農村より高いが、これには多方面の原因（都市での生活費がわりあいに高つくつという原因をふくむ）があり、そしてこれはまた一時的な現象であつて、農民にはつきり説明すべきである。農村ではいちぶの社員は自分が働くほかに、家からよそに出ていつているもの（たとえばいちぶの労働者、軍人、幹部、華僑など）があつて、都市その他の地方から送金してきているが、こうした事情については、他の社員がかれこれいわないよう説得すべきである。公社は、分配にあつては現物給与の部分であらうと賃金の部分であらうと、こうした社員にたいしてはすべて一視同仁にあつかうべきであり、またかれらにむりに公社へ投資させたり寄付させたりしてはならない。たとえ、かれらがよそへ出て行つているものによつて全部の生活を維持しているものであつても、公社はそれに干渉すべきではない。しかし、現物給与を別にしなくてもよい。よそへ出て学校に行つている学生にたいしては、国家の給与



をうけているもの、または自弁できるものはべつとして、かれらの入用は縣連合公社が、学校のみめた費用の標準にもとづいて、統一的にその解決にあたるべきである。

社会主義事業がますます前にむかつて発展をとげ、社会の生産物がますますゆたかになればなるほど、個人の所有として分配される生活資料も必然的にますます豊富になつてゆく。公社化は、個人のいまもつている消費財をとりあげて再分配するのだと考えているものがあるが、これは一種の誤解である。社員個人のもつている生活資料（家屋、衣服、寝具、家具などをふくむ）および銀行、信用協同組合にある預金は、公社化してのちもやはり社員の所有であるばかりでなく、永久に社員の所有であることを大衆に公表すべきである。社員の余分の家屋については、公社は、必要なばあい、社員の同意をえてこれを借りうけることができるが、所有権はやはりもとの持主にぞくする。社員は、住居のそばにあるわずかな立木やちいさい農具、ちいさい工具、ちいさい家畜と家禽などを手もとのこしておいてもよいし、集団的な労働への参加の妨げにならないかぎり、ひきつづき小規模な、なんらかの家内副業をいとなんでもよい。

人民公社の成立いぜんからのこされた債務は、個人相互間の債務であらうと、公社と社員の相互間の債務であらうと、あるいは社員が銀行や信用協同組合から借りている貸付金であらうと、すべてこれを帳消しにすることを公表してはならない。これらの債務については、およそ償還のちからがあるものはこれまでどおり償還すべきであり、償還のちからのないものはしばらくこれを保留することにする。

## 五

人民公社は人民の生産と生活の組織者であり、生産を發展させる根本の目的は、社会のすべての成員のつねに増大する物質面、文化面における生活上の需要を最大限にみたすことにある。党は、公社の活動を指導するにあつて、全面的に思想、生産、生活に注意することに心をくばらなければならない。かならず人に関心をもち、物をみて人をみないという、そういう傾向を是正しなければならない。大衆の労働意欲が旺盛になればなるほど、党はいつそう大衆の生活に関心をよせるべきである。党が大衆の生活に関心をよせればよせるほど、大衆の労働意

欲もますます旺盛になつてくる。生産と生活を対立させて、大衆の生活を重視すると生産の妨げになるといふ見方は間違つてゐる。もちろん、自覚の向上と生産の発展をそつちのけにして、一方的に、または過度に生活の改善を強調して、遠いさきさきの利益のために刻苦奮闘するよう提唱しないのも、これまた間違いである。

共産主義者はこれまで一貫して、共産主義社会では、労働は「重荷から快樂にかわり」、「生活の第一の欲求」となる、と考へてゐる。將來、毎日の労働時間が大いに短縮されることは疑いない。機械化、電化の発展にともなつて、われわれは、こんご若干年のうちに毎日六時間働く制度の実現にとりかかるよう努力しなければならぬ。われわれのいまのはりつめた労働も、將來の毎日六時間労働ないしそれよりもつと短かい時間の労働のための条件をつくりだすことを目的とするものにはかならない。いまのところでは、都市ばかりでなく、農村でも、平時は實際労働八時間、学習二時間という制度を實行すべきである。農繁期または農村の他の仕事がとくに忙しいときには、仕事の時間を適度にいくらかのばしてもよい。しかし、どんなばあいでも、毎日睡眠八時間、食事と休息が四時間、あわせて十二時間を保証すべきであり、

この時間は絶対に欠かしてはならない。いまのところ、労働力が不足しているのは事実であるが、十分に工具を改良し、労働組織を改善する面でこれを打開することに重点をおくべきであつて、労働時間をのばす面で打開しようとすることに望みをかけてはならない。生産の安全にはとくに注意をはらい、できるだけ労働上の諸条件を改善し、仕事のうえで、傷害事故を減らし、これを避けるように努めなければならない。かならず婦人の産前、産後における十分な休息を保証し、月経期間中も婦人に必要な休息をとらせ、過重な仕事はさせず、つめたい水の中にははいらせず、夜業をさせないようにすべきである。

共同食堂をりつばに経営すべきである。すべての社員に腹いっぱい食べさせ、美味いものを持たせ、清潔で、衛生的なものを食べさせるよう保証するとともに、そのうえ、民族の習慣と地方の習慣にあうようにすべきである。共同食堂には、食事用の広間を設けるべきであり、野菜畑、豆腐、はるさめ、漬物をつくるころをりつばに経営すべきであり、豚や羊、鶏やアヒルを飼ひ養魚などをやるべきである。主食や副食物は多種多様にし、味をよくすべきである。栄養学者と相談して、食品中に生理上必要なカロリーと栄養分をふくませるようになすべき

である。老人や子供、病人、妊産婦、授乳中の母親には、食事の面で必要で可能な配慮をくわえるべきであり、また、いちぶの社員が家で炊事をするのをみとめてもよい。共同食堂は管理の民主化を實行すべきである。食堂の管理員と炊事員には、政治的に信頼できる人をえらんでこれにあてるべきであり、できれば民主的にこれを選挙する。

託児所と幼稚園をりつばに経営し、すべての子供が家庭にいるよりも生活がよくなるようにし、教育ももつとりつばにうけられるようにし、子供たちがそこにいたがり、両親も子供をそこにおきたがるようにすべきである。両親は、子供を寄宿させる必要があるかどうかをきめることができ、また、いつでも子供を家につれてかえつてよい。託児所と幼稚園をりつばに経営するために、公社は託児所と幼稚園の要求にかなつた保育員と教師を大ぜい養成しなければならぬ。

敬老院をりつばに経営し、たよるべき子女のない老人（「五保戸」）のために比較的良好な生活の場所を提供すべきである。

公社はまた、責任をもつて小学校、中学校および成人教育をりつばにやらなければならない。他の中等実業学校をりつばに経営し、しだいに中等教育を普及してゆくべきである。成人のあいだでは真剣に文盲をなくし、各種の業余学校をつくつて政治、文化、技術の教育をおこなうべきである。勤労者のなかでは、普通教育を実施するとともに、しだいに教育の水準をひきあげてゆくこと、これは肉体労働と頭脳労働との差異を小さくするひとつの重大な措置であつて、真剣にやらなければならない。このほか、各公社は、いちぶの青年をえらんで都市の高級中学校、中等専修学校、大学・専門学校に入れて、国家と公社のためにわりあい高い文化水準をもつ働き手を養成しなければならない。どのような種類の学校であつても、すべて教育と生産労働をむすびつける原則をつらぬきとおさなければならない。幼少のときから労働の習慣をやしなわせ、身心の発育をうながすため、九歳以上の児童は、なんらかの労働に適度に参加させてよい。しかし、児童の健康に十分の配慮をくわえ、児童の体力と興味にあつた、軽い、短時間の労働をあてがうようにしなければならない。

共同食堂、託児所、幼稚園、敬老院、小学校、衛生院、クラブ、商店などの方面の従業員に

たいする思想・政治工作をつよめるとともに、社会ぜんたい、公社ぜんたいが共同食堂、託児所、幼稚園その他の集団的な生活・福祉事業をりつばに経営し、サービシ的な仕事をりつばにやつてゆくことを、人民に奉仕する崇高な仕事とみなすよう、社会の世論を積極的に指導すべきである。大衆の生活・福祉の仕事を軽視し、サービシ的な労働を軽視する搾取階級の見方を批判し、是正すべきである。

いまある旧式の家屋をしいに改造し、何回かにわけてまとめて住宅、共同食堂、託児所、幼稚園、敬老院、工場、脱穀場、畜舎、商店、郵便・電報電話局、倉庫、学校、病院、クラブ、映画館、体育場、浴場、便所などをふくむ新しい型の園林化した郷、鎮、村の居住区を建設すべきである。郷、鎮、村の居住区の住宅の建設計画は、大衆の十分な討議をへなければならぬ。われわれは、歴史の遺物である不合理な家父長制をなくし、民主的な、団結した家庭生活を発展させることを主張する。こうした主張は大衆から熱烈に歓迎されている。このため、住宅建築の面では、家屋が各家庭の老若男女の団らんに適するように注意しなければならぬ。

いま世界には、一団の愚か者がいて、死物狂いになつてわれわれの人民公社を攻撃しているが、そのなかにアメリカのダレス先生そのひとがいる。このダレスというひとは、わが国の事情については皆目わかりもしないくせに、ひとかどの中国通ぶつて、氣違ひのように人民公社に反対している。とりわけかれを悲しがらせているのは、われわれが数千年らいつたわつてきた結構のうえない家庭制度を破壊したということなのだそうである。なるほど、中国人民は封建的な家父長制を破壊した。ところがどうして、こういつた家父長制は、資本主義社会では、一般にとつくの昔になくなつており、これは資本主義のひとつの進歩である。われわれは、それよりさらにすすんで、民主的な、団結した家庭をつくつていくが、これも資本主義社会では一般にめつたにないものである。將來、そこで社会主義革命が実現し、人が人を搾取る資本主義制度がなくなつたのち、はじめてこうした家庭があまねく出現しうるのである。託児所、幼稚園、工場の労働者食堂にいたつては、これも資本主義社会の方がさきにあつた。ただ、そこでは、およそブルジョアジが経営するこの種の事業は、すべて資本主義的な性質のものであつて、それは、資本家が男女勤労者を搾取るに都合のよいようにするためである。

ところが、われわれの経営しているこの種の事業は、社会主義的な性質のものであつて、社会主義事業の発展に役立つのであり、人類の個性の解放に役立つのであつて、婦人大衆を真に徹底的に解放するとともに、児童の保育をいっそうよくおこなうことができるようになり、このため勤労者のすべてから、とりわけまず婦人大衆から熱烈に歓迎されているのである。

## 六

人民公社の組織原則は、民主集中制である。生産管理の面、收入分配の面、社員的生活・福祉およびその他あらゆる仕事の面のいずれをとわず、すべてこの原則をつらぬきとおさなければならぬ。

人民公社は、統一的指導と級ごとに管理する制度を実施すべきである。公社の管理機構は、一般に公社管理委員会、管理区（または生産大隊）、生産隊の三級にわけられる。管理区（または生産大隊）は、一般に工業、農業、商業、文化・教育、軍事を区画を分けて管理し、独立採算制をおこなう単位であり、損益は公社が一括して、責任を負う。生産隊は労働を組織する

基本単位である。公社管理委員会の統一的指導のもとに、管理区（または生産大隊）と生産隊に、生産と基本建設を組織し、財務を管理し、生活・福祉事業を管理するなどの面での必要な権限をもたせて、かれらが積極性を發揮できるようにすべきである。

縣連合公社と人民公社の各級の組織はすべて、各生産部門（農業部門、工業部門、輸送部門）のあいだ、經常的な生産任務、突撃的な生産任務、サービスの任務とのあいだに、労働力を合理的に分配、調達することをおぼえて、仕事があるところに人手がないとか、人手があるところに仕事がないといった現象がおこらないようにしなければならない。たえず労働を組織する仕事を改善してゆき、生産任務やその他の任務について、一定の仕事を級ごとに請負うという責任制度をひきつづき実施し、強固にし、労働の点検と褒賞をきめる制度を健全なものにし、労働の能率と仕事の質を確実に高めるよう保証しなければならない。

人民公社の労働組織には、規律もあれば、民主もあるようにしなければならない。いわゆる組織の軍事化とは組織の工場化であり、いいかえれば公社の労働組織が工場のように、軍隊のように組織と規律をもつべきであるということであつて、これは大規模な農業生産にとつてぜ

ひとつも必要である。大規模な農業生産の隊伍は、大規模な工業生産の隊伍とおなじく、ひとつの産業軍である。近代の産業軍はブルジョアジーの組織したものであつて、ひとつの工場はひとつの兵營にひとしい。労働者が機械のまえに立つと、その規律のきびしいことは、軍隊におとらない。社会主義社会の工業産業軍は、労働者階級という単一の階級の産業軍であり、剰余価値を搾取する資本家をとりのぞいて、労働者階級の内部で、いきいきとした、自覚と自発的意志にもとづく民主集中制を実施している。われわれはいま、この制度を農村に應用し、こうして、地主と富農の搾取のない、そしてまた、小生産の状態を脱した、社会主義的民主集中制をとる農業産業軍をうちたてたのである。

人民公社の各級の生産組織には、それ相應に民兵組織をつくるべきである。民兵組織と生産組織の指導機構は二本建とすべきであり、各級の民兵組織の指揮員、すなわち連隊長、大隊長、中隊長などは、原則として公社の主任、管理区主任（大隊長）、隊長などが兼任しないものとする。これらの指揮員は、公社内のおなじ級の管理機構に参加してその構成員のひとりとなり、おなじ級の管理機構とうえの級の民兵指揮機関の二重の指導をうけるべきである。民兵

組織には、必要にもとづいて武器を配備し、武器は地方が自分で兵器工場を経営してつくるべきである。基幹民兵は、きめられた時間どおり軍事教練をおこない、一般民兵も労働時間の合間に適当な訓練をおこなつて、全民皆兵を実施するための条件をととのえるべきである。わが国の広はんな勤労者は民兵制度を歓迎している。それは、かれらが帝国主義、封建主義およびその手先である国民党反动派に反対する長期にわたる革命闘争のなかで、自己を武装することによつて、はじめて武装した反革命のうち勝つことができ、はじめて中国というこの大地の主人公になることができることを認識したからであり、そして、革命に勝利したのち、かれらはまた、国外にはまだ、この人民の国家を滅ぼすぞと毎日のように公言している帝国主義の強盗どもがいるのをみてとつていからであり、したがつて、すべての人民はひきつづき自己を武装する決意をかためるとともに、つぎのように言明している、ひたすらわれわれから略奪することを考えている強盗どもよ、お前たちはすこし氣をつけたがいい、われわれ平和な労働に従事しているものによつたつてこようなどという馬鹿氣な考えをもつな、われわれはすつかり用意をととのえているのだ、と。いつたん、帝国主義がわが国にたいしてあえて侵略戦争をおこ

したならば、われわれは全民皆兵を実現し、民兵は人民解放軍とあい呼應し、また、人民解放軍を随時補充して、侵略者を徹底的にうち敗るであろう。

人民公社のいつさいの組織は、民兵の組織もふくめて、集中もあれば、民主もあるべきである。公社は、人民の生産を組織するばかりでなく、人民の生活をも組織すべきである。仕事をりつぱにやるためには、高度の民主を實行しなければならぬし、事あるごとに大衆と相談し、忠実に大衆の利益を代表し、大衆の意志を反映しなければならぬ。したがって、公社は、「組織の軍事化、行動の戦闘化、生活の集団化」を實行すると同時に、管理の民主化を十分に実行しなければならぬ。組織の軍事化を口実にしたり、あるいは、敵に対処するための民兵制度を利用したりして、公社と民兵組織の民主生活をいささかでも弱めることは絶対に許されない。公社は、わが国の基礎権力の組織であつて、公社の民主化を十分に保証してはじめて、全国にわたつて集中もあれば民主もあり、規律もあれば自由もあり、意志の統一もあれば個人の氣持の伸びやかさや潑刺とした生氣もある、という政治的な局面をうみだすことができるのである。

## 七

人民公社をりつぱに運営するうえでの根本問題は、党の指導をつよめることである。党の指導をつよめることによつてはじめて、政治がいつさいを統率することが実現されるようになる。幹部と社員のあいだで社会主義、共産主義の思想教育と、さまざまな誤つた傾向に反対する闘争をふかいつておこなうことができ、党の路線と政策を正しく遂行してゆくことができるのである。公社があれば党はなくてもよいとか、いわゆる「党と公社の合体」を實行することができると考えているものがあるが、こうした考え方はまちがつてゐる。

党は、人民公社の仕事において、正しい路線と政策の遂行を保証しなければならないほか、さらにまた、公社の要員がすぐれた作風、まず第一に大衆路線の作風と現実にそくして真理をもとめるといふ作風を発揚するよう、これを教育することに注意をはらわなければならない。

一九五七年から一九五八年にかけての整風運動によつて、党の大衆路線は新しい偉大な勝利をおさめた。社会主義建設の大躍進と農村に人民公社があまねくつくられたことは、この勝利

をしめす二つの標識である。党の大衆路線という活動方法は人民公社の生命である。大衆路線なしに、党と人民政府にたいする大衆の全幅の信任なしに、大衆の革命的積極性の高まりなしには、人民公社の設立と強化は不可能である。したがって、公社の各級指導者は、どのような活動のなかでもすべて徹底的に大衆路線を実行しなければならない。自分を普通の勤労者ともみなし、社員大衆にたいして同志的な態度をとらなければならない。大衆を屈服するような国民党の作風、ブルジョア作風で大衆に接することをきびしく禁止する。生産の大躍進により、公社化の勝利によつて、あるいちぶの幹部はのぼせあがりかけており、人民大衆にたいして辛抱づよく説得による教育をおこなうことをのぞまず、ある種の粗暴な態度をしめしている。こうした現象は個別的なものにすぎないが、大いに警戒しなければならない。

党は、どのような活動にあたつても、革命的な熱情と科学的精神とをむすびつける原則を堅持しなければならない。一九五八年の大躍進は、わが国の社会主義建設事業の空前の勝利をうみ、いまだはわれわれの敵でさえこの勝利のもつ意義を否定できなくなつてゐる。しかし、われわれは、大きな成績をあげたからといつて、ちいさな欠点をないがしろにするわけにはい

していかない。それどころか、成績が大きければ大きいほど、頭脳を冷静にたもち、わきたつ勝利の声によいしれてしまい、ついには自分の仕事のなかの欠点が見えず、はてはこれに目をむけようとしなないことのないよう、われわれは幹部の注意を喚起する必要がある。当面の社会主義建設の仕事のなかで注意すべき一種の傾向は、誇張することである。これは、わが党の現実にそくして真理をもとめるといふ作風とはあいいれないものであり、われわれの社会主義建設事業の発展にとつて不利である。われわれの経済工作はますます緻密にやらなければならないし、われわれの各級指導者は事物の本質と現象を区別し、いわれのある要求といわれのない要求を区別することをよくこころえ、状況の判断をつとめて客観的な現実に近づけるようにしなければならない。こうしてはじめて、われわれは真に確実な基礎のうえにたつて、われわれの計画をたて、これを実現してゆくことができるのである。

## 八

人民公社の強化をうながすため、一九五九年の工業と農業の生産のいつそう大きな躍進を保



証するために、各省、市、自治区の党委員会は、この決議に提出されている各要求にもとづいて、一九五八年十二月から一九五九年四月までの五カ月間の期間を有効に活用し、冬季および春季の生産任務とかくむすびつけて、その地区の人民公社にたいして教育、整備および強化の工作、すなわち公社の体制の整備をいちどおこなうべきである。

公社の体制整備にあたっては、まずさいしよに、指導者が真剣に自己批判をおこない、大衆の意見を虚心に聞き、この基礎のうえにたつて思いきつて大衆を動員して、大いにものをいわせ、大いにぶちまけさせ、大々に論議させ、また、大字報をはりだして、りつばな人物、りつばな業績を表彰し、悪い考え方、悪い作風を批判し、経験をしめくり、方向を明確にさせ、社会主義、共産主義の深入つた思想教育運動を展開することを要求する。

公社の体制整備をおこなうにあたっては、公社の生産計画、分配状況、生活・福祉、経営管理、財務、組織・指導について全面的に、つつこんで点検をおこなうべきである。それと同時に、党の組織と公社の組織を確実に整備し、党と公社の各級の指導者がかならず人民の利益と共産主義事業に忠実な積極分子であるよう保証するとともに、大躍進運動と公社化運動のなか

で試練をうけ、党員の標準になつた優秀なものを吸収して入党させるべきである。

党員と幹部の作風上の問題については、党の教育と大衆の活発な討議をつうじて処理すべきである。処理にあたっては幹部と大衆の積極性を保護することに注意すべきであり、「団結——批判——団結」という原則と「前のあやまりを後のいましめとし、病いをなおして人をすくう」という方針にもとづき、誤りをおかしたが、誤りをあらためることをのぞむものになんたいしては、批判はきびしくくわえるが、処分は寛大にすべきである。公社の指導機構にまぎれこんでいる階級的異分子と、ごく少数の、作風がひどく悪く、くりかえし教育してもあらためないものになんたいしては、大衆を決起させて、かれらを指導機構から追放すべきである。

複雑な階級闘争は、国外で、資本主義世界で深刻におこなわれているばかりでなく、国内においてすらおこなわれている。大衆を教育して革命的な警戒心をたかめ、敵の破壊活動を嚴重に防止するようにしなければならない。公社のなかにいるもの地主、富農、反革命分子およびその他政治的権利を剝奪されているものを社員にしてよいかどうか、あるいは假社員にするか、あるいはこれまでどおり公社の監督のもとに労働させるかどうかについては、公社の体制

を整備するなかで、大衆がかれらの態度をもとにして、それぞれについて討議し、決定を下すようにすべきである。

公社の体制整備は、各縣の範囲内でまずひとつか、ふたつの実験をりつばにやること、すなわち、ひとつかふたつの人民公社内で、その同志たちを助けて、わりあいにもじかい期間内にそこの仕事をりつばにやり、經驗をつみあげ、これを手本にし、それから全面的におしひろめていくようにすべきである。各省、市、自治区では、いずれも千人、数千人、あるいは一万人前後の点檢団を組織し、省、地方、縣の三級の党委員会第一書記がこれを統率して公社の体制整備を指導すべきである。点檢団は、專区と專区のあいだ、縣と縣のあいだ、公社と公社のあいだで、視察・評定をおこない、現場會議をひらいて、成果を發展させ、欠点を克服し、大いに労働意欲をふるいおこさせ、対策をこうじ、当面の問題を具体的に解決し、成功した經驗を早急におしひろめるようにすべきである。要するに、このたびの体制整備をつうじて、全國の人民公社の工作があまねく一歩たかめられるようにしなければならないのである。

(一九五八年十二月十九日づけ「人民日報」所載)

## 中国共産党第八期中央委員会第六回総会の

毛沢東同志がおこなつた、次期の中華人民共和国主席の候補者

にならないことについての提案に同意することに關する決定

(一九五八年十二月十日)

数年らい、毛沢東同志は、いくども中央にたいして、ひきつづき中華人民共和国主席の職務を担当しないことにしたいと申し出てきた。中央委員会総会は、十分に、多方面にわたつて考慮したすえ、毛沢東同志のこの提案に同意し、第二期全国人民代表大会第一回會議では、毛沢東同志をふたたび中華人民共和国主席の候補者にたてないことに決定した。中央委員会総会は、これはまったく積極的な提案であるとみとめた。なぜなら、毛沢東同志が國家主席の職務を担当しないで、もつぱら党中央の主席を担当することによつて、いつそう精力を集中して、

党と国家の方針、政策、路線の問題を処理することができ、また、より多くの時間をさいてマルクス・レーニン主義の理論工作に従事することもできるようになり、国務にたいしては、ひきつづき指導的な役割をはたすさまたげにはけつしてならないからである。こうすることは、全党ならびに全国人民のいずれにとつてもいつそう有利である。毛沢東同志は、全国の各民族人民にこころから愛され尊敬される、ながいあいだの試練をへてきた領袖であつて、毛沢東同志が、ふたたび国家主席の職務を担当しなくなつていごも、やはり全国の各民族人民の領袖なのである。將來、もしもなんらかの特殊な事情が生じて、毛沢東同志がふたたびこうした仕事を担当する必要がおこつたばあいには、やはり、人民の意見と党の決定にもとづいて、ふたたび国家主席の職務を担当するよう毛沢東同志をたてることができる。各級の党委員会は、これらの理由にもとづいて、党の適当な会議で、各級人民代表大会の会議で、工鉞企業の労働者の集会で、人民公社の集会で、機関、学校、部隊の集会で、党内外の幹部と大衆に十分説明をおこない、これによつてみんながこのことの理由を了解し、誤解のないようにすべきである。

(一九五八年十二月十八日づけ「人民日報」所載)

中国共産党第八期中央委員会第六回総会の文獻

1959年3月 初版発行

出版者 外 文 出 版 社

中 華 人 民 共 和 国  
北 京 阜 城 門 外 百 万 荘

編号(日)3050-198

150